

シラバス集

マロニエ医療福祉専門学校

看護学科 3年

2026年度

シラバスの見方

授業科目名	①		実務経験講師	③
担当教員名	②		実務経験	④
開講年度	⑤ 年度	学 期	⑦	
年 次	⑥ 年次	授業回数	⑧ 回	
単 位 数	単 位	単位時間数	時 間	
授業科目の概要	⑨			
授業科目の到達目標	⑩			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用テキスト	⑫
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	
その他 受講生への要望等	

① 授業科目名

② 担当教員名

担当する主な講師の氏名です。氏名の前の番号は「実務経験（④）」に対応しています。

③ 実務経験講師

講師に担当する科目に関する実務経験がある場合、「○」がついています。

実務経験とは・・・資格をもっているだけでなく、実際の施設等で資格を活かして働いた経験があるということ。

※一部を除き、違う学校で同様の科目を教えている等の教員経験は実務経験に含まれません。

④実務経験

担当講師の実務経験内容を簡単に記してあります。

⑤開講年度

⑥年次

授業を受ける学年です。

⑦学期

前期・・・4月～9月

後期・・・10月～3月

通年（全期）・・・1年間を通して、もしくは前期～後期にかかるどこかの期間で

⑧授業回数

⑨授業科目の概要

授業内容の大まかな説明です。

⑩授業科目の到達目標

授業が修了した時に到達するべき学修の目標です。

⑪授業スケジュールと内容

内容・・・1回の授業がどのような内容で構成されているか

授業方法・・・講義、演習、実習など

課題/小テスト・・・その授業の回に課題や小テストが課されている場合は記載されます。予習の内容が書かれている場合もあります。

⑫使用テキスト

授業で使用するテキストの情報です。プリント等オリジナル教材を使用する場合もあります。

シラバスの使い方

シラバス（授業計画書）は、各授業科目の概要のことです。

あらかじめ学生の皆さんに授業の進め方、学習内容、学習のねらいや評価方法を提示することによって、授業の流れをよく理解してもらい、より計画的に、主体的に、効果的に学習できることを目的に作成したものです。

シラバスを読めば、科目担当教員が皆さんにどのようなことを修得してほしいのか、また、何をどこまで、どのような方法で授業するのかを事前に知ることができます。専門学校での授業は、予習→授業→復習のサイクルを確立することが基本であり、最も大切です。シラバスを有効に活用して、自分に合った学習のパターンや方法を見つけ、学習に取り組んでください。

【授業を受ける前に】

1. 科目の到達目標には、その科目を勉強することによって皆さんに身につけてほしい目標が記載されています。この科目で身につけるべきことは何かを確認しましょう。
2. 授業の概要・内容・進め方を確認し、自分が何を学ぶのかイメージした上で、計画を立てて学習に臨みましょう。
3. 各回のキーワードはその授業で覚えてほしい重要なもの（将来的には国家試験にも関連する事柄も含む）として示してあります。各回の授業で自分が理解できたかどうかを振り返る上でのポイントとなります。
4. 使用テキスト・参考書については何を使用するのか事前に確認し、準備しましょう。
5. 「この科目の基礎となる科目」は、この科目を学ぶ上でベースとなる科目です。また、「この科目を基礎とした科目」はこの科目で学んだことを用いて発展させることを目指す科目です。科目同士のつながりを意識しながら、効果的に学びましょう。
6. 「成績評価の方法」にはこの科目の評価に用いる試験や課題などの情報を示してあります。課題レポート・出席状況・小テストなども含まれる科目がありますので、よく確認しましょう。
7. 提出物のある科目については、各学科のルールを確認の上、締め切りを守りましょう。専門職を目指す皆さんには、時間管理や、ルールを守ることも基本的な力として身につけてほしいと考えています。

シラバスの大まかな使い方は以上ですが、わからないことがあれば、遠慮なく教員に聞いてください。

別表 I - 6

看護学科 授業科目一覧

区分	教育内容	授業科目名	指定規則	学校指定		1年次		2年次		3年次		
				単位数	時間数	単位	時間	単位	時間	単位	時間	
基礎分野	科学的思考の基盤	論理科学	14	1	30	1	30					
		情報科学		1	15	1	15					
		生活科学		1	15	1	15					
	人間と生活・社会の理解	教育心理学		1	15			1	15			
		社会学		1	15	1	15					
		社会心理学		1	15	1	15					
		心理関係論		1	30	1	30					
		人間関係論		1	30	1	30					
		カウンセリング論		1	15			1	15			
		家族論		1	15			1	15			
		地域論		1	15	1	15					
		英語 I		1	30	1	30					
		英語 II		1	30	1	30					
		運動と健康 I		1	30	1	30					
運動と健康 II	1	15			1	15						
基礎分野・小計			14	14	285	10	225	4	60	0	0	
専門基礎分野	人体の構造と機能・ 疾病の成り立ちと 回復の促進	生化学	16	1	30	1	30					
		人体の構造と機能総論		1	30	1	30					
		人体の構造と機能 I		1	30	1	30					
		人体の構造と機能 II		1	30	1	30					
		人体の構造と機能 III		1	30	1	30					
		人体の構造と機能 IV		1	30	1	30					
		人体の構造と機能 V		1	30	1	30					
		疾病治療総論		1	30	1	30					
		微生物学と感染症		1	30	1	30					
		疾病治療論 I		1	30	1	30					
		疾病治療論 II		1	30	1	30					
		疾病治療論 III		1	30	1	30					
		疾病治療論 IV		1	30	1	30					
		疾病治療論 V		1	30			1	30			
		疾病治療論 VI		1	30			1	30			
		臨床薬理学		1	30	1	30					
	総合医療論	1		15	1	15						
	健康支援と 社会保障制度	公衆衛生学		6	1	15			1	15		
		社会福祉論 I			1	15	1	15				
		社会福祉論 II			1	15			1	15		
		関係法			1	15					1	15
		医療と経済			1	15					1	15
臨床公衆衛生学		1	15									
専門基礎分野・小計			22	22	570	16	450	5	105	1	15	
専門分野	基礎看護学	基礎看護学概論	11	1	30	1	30					
		基礎看護学方法論 I		1	30	1	30					
		基礎看護学方法論 II		1	30	1	30					
		基礎看護学方法論 III		1	30	1	30					
		基礎看護学方法論 IV		1	30	1	30					
		基礎看護学方法論 V		1	30	1	30					
		基礎看護学方法論 VI		1	30	1	30					
		基礎看護学方法論 VII		1	30	1	30					
		看護過程		1	30			1	30			
		看護研究		1	30					1	30	
		臨床看護総論		1	15	1	15					
	基礎看護学 実習 II	3	基礎看護学実習 I	1	45	1	45					
			基礎看護学実習 II	2	90			2	90			
			基礎看護学実習 III	2	90					2	90	
	地域・在宅看護論	6	地域・在宅看護学概論	1	30	1	30					
			地域・在宅看護学方法論 I	1	15			1	15			
			地域・在宅看護学方法論 II	1	15			1	15			
			地域・在宅看護学方法論 III	1	15			1	15			
			地域・在宅看護学方法論 IV	1	30			1	30			
			地域・在宅看護学方法論 V	1	30			1	30			
	地域・在宅看護学実習	2	2	90					2	90		
	成人看護学	6	成人看護学概論	1	30	1	30					
			成人看護学方法論 I	1	30			1	30			
			成人看護学方法論 II	1	30			1	30			
			成人看護学方法論 III	1	30			1	30			
			成人看護学方法論 IV	1	30			1	30			
			成人看護学方法論 V	1	30			1	30			
	成人看護学 実習 II	2	成人看護学実習 I	2	90			2	90			
			成人看護学実習 II	2	90					2	90	
			成人看護学実習 III	2	90					2	90	
	老年看護学	4	老年看護学概論	1	30	1	30					
			老年看護学方法論 I	1	30			1	30			
			老年看護学方法論 II	1	15			1	15			
			老年看護学方法論 III	1	30			1	30			
			老年看護学実習 I	2	90			2	90			
	老年看護学実習 II	2	90					2	90			
	小児看護学	4	小児看護学概論	1	30	1	30					
			小児看護学方法論 I	1	15			1	15			
			小児看護学方法論 II	1	30			1	30			
			小児看護学方法論 III	1	30			1	30			
	小児看護学実習	2	2	90					2	90		
	母性看護学	4	母性看護学概論	1	30	1	30					
母性看護学方法論 I			1	15			1	15				
母性看護学方法論 II			1	30			1	30				
母性看護学方法論 III			1	30			1	30				
母性看護学実習			2	2	90					2	90	
精神看護学	4	精神看護学概論	1	30	1	30						
		精神看護学方法論 I	1	15			1	15				
		精神看護学方法論 II	1	30			1	30				
		精神看護学方法論 III	1	30			1	30				
		精神看護学実習	2	2	90					2	90	
看護の統合と実践	4	看護の統合と実践 I	1	30			1	30				
		看護の統合と実践 II	1	30			1	30				
		看護の統合と実践 III	1	15					1	15		
		看護の統合と実践 IV	1	30					1	30		
		看護の統合と実践実習	2	2	90					2	90	
専門分野小計			66	66	2,190	16	480	31	915	19	795	
合 計			102	102	3,045	42	1,155	40	1,080	20	810	

授業科目名	関係法規	実務経験講師	○
担当教員名	渡邊芳江	実務経験	看護師
開講年度	2026年度	学 期	後期
年 次	3年次	授業回数	7回
単 位 数	1単位	単位時間数	15時間
授業科目の概要	看護職が質の高い看護を提供するには、社会人として豊かな人生を送り、職業人として任務を果たすことが必要である。そのためには高い教養を持ち、深い専門的知識と優れた技術技能を身に着けるとともに、我が国の保健医療福祉に関する諸制度の概要と諸法令を理解することが必要である。		
授業科目の到達目標	1. 法の意義について考えることができる。 2. 看護に関連する各法律の概要を理解できる。 3. 学習した法律をもとに、看護職としての職務を遂行するための根拠や判断基準がわかる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	法の内容	講義	国家試験過去問
2	看護法、医事法	講義	国家試験過去問
3	医事法	講義	国家試験過去問
4	保健衛生法	講義	国家試験過去問
5	薬務法、社会保険法	講義	国家試験過去問
6	福祉法	講義	国家試験過去問
7	労働法と社会基盤整備	講義	国家試験過去問
8	終講試験	講義	

使用テキスト	系統看護学講座 看護関係法令 医学書院
この授業科目の前提となる主な科目	専門分野
この授業科目から発展する主な科目	公衆衛生、社会福祉学、専門分野、統合分野
成績評価の方法	評価配点:終講試験100点
その他 受講生への要望等	

授業科目名	看護研究	実務経験講師	○
担当教員名	今井貴子 他 教員	実務経験	看護師
開講年度	2026年度	学 期	前期
年 次	3 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	<p>科学・医学の発展と共に、医療関係者でなくとも最新の医療情報を Web 上で簡単に得られる時代になっている。看護師は氾濫する情報の中から信頼できる最新の情報を基に看護を行うことを求められている。「この看護援助に科学的根拠はあるのか」「より効果的でより効率の良い看護援助を行うためにはどうすればよいか」等、臨床で遭遇するこういった問題に答えてくれるのが研究論文である。この授業では、まず、科学的根拠のある正しい情報の収集方法から研究論文の読み方を学び、臨床に役立つ知識を得る方法を実践の中で身につけていく。その後、研究方法について学び、研究計画の立案とケースレポートまでを一通り経験することで、知識を得る側から提供する側になるための基礎的な知識を習得する。</p>		
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 調べる楽しさを知り、看護研究の目的を理解できる 2. 情報の検索、特にテキストからの検索を学ぶ 3. ケースレポートをまとめ、発表することで自身の看護を振り返ることができる 		

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	今井	自分の興味があることを調べてみよう 看護研究の定義、意義	演習 講義	
2	今井	看護研究のはじめ方 リサーチクエスチョンを設定しよう	講義 演習	
3	今井	情報の探索と吟味 文献レビューとその方法	個人 W	
4	今井	研究における倫理的配慮 研究デザイン	講義	
5	今井	研究の設計と方法の選択	講義	
6	今井	データの収集と分析	講義 個人 W	
7	今井	研究計画書の作成	個人 W	
8	今井	ケースレポート・事例研究の進め方	講義	
9	担当、今井	事例研究ケースレポート作成	個人 W	
10		//	//	
11		//	//	
12		//	//	
13		//	//	
14		//	//	

15		終講試験、ケースレポート提出		
----	--	----------------	--	--

使用テキスト	系看 別巻 看護研究 医学書院
参考書・資料 等	*図書館での文献検索を基本に考えています。インターネットによるものも利用します。
この授業科目の前提となる主な科目	基礎看護学概論
この授業科目から発展する主な科目	各領域実習
成績評価の方法	終講試験50点 レポート50点(評価表に基づく)
その他 受講生への要望等	「患者さんの笑顔が見たい」「もっと役に立ちたい」「もっと楽に仕事がしたい」「これ意味あるの?」「このルールほんとに必要?」そんな人間らしい欲求や疑問が多くの研究を生み出しました。ネガティブな気持ちを感じたら、研究のチャンスです。ぜひ一緒にそんな気持ちを研究にしていきましょう!

授業科目名	看護の統合と実践 看護の統合Ⅳ		実務経験講師	
担当教員名	今井貴子 塚田優 各領域の科目担当教員		実務経験	
開講年度	2026年度	学 期	後期	
年 次	3年次	授業回数	15回	
単 位 数	1単位	単位時間数	30時間	
授業科目の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・複数患者事例の看護展開を行う。シミュレーション演習の中で、突発的事象を含めた多重課題に対し、優先順位の決定、時間管理の方法を学ぶことを目的とする。また臨地実習において体験できなかった看護技術や、卒業後を見越した診療の補助技術についての実践も演習を通して学ぶ。 ・産業看護の基本的知識を学ぶ。 ・看護師国家試験を踏まえ、これまで修得した知識を統合し再確認することができる。 			
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入院患者の情報収集の方法について述べられる 2. 複数事例を受け持つための情報収集の方法について述べられる 3. 複数の患者を受け持ち、優先順位を考えた行動計画が立案できる 4. 突発的事象に対し、優先順位を考えて援助を実施する 5. 臨床で遭遇しやすい突発的事象に対し、他者と連携しながら状況に応じた看護ケアを経験する 6. 企業での看護職の役割、産業看護活動の内容がわかる。 7. 3年間で習得した知識の確認として、各領域を統合した終講試験に取りくむ 			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	塚田	・複数患者を受け持つための情報収集①	講義	
2	塚田	・複数患者を受け持つための情報収集② GW	講義	提出物:レポート① 「複数患者の情報収集」
3	塚田	・多重課題への対処①	講義	
4	塚田	・多重課題への対処②	講義	提出物:レポート② 「多重課題の対処」
5	塚田	・時間管理(タイムマネジメント)の方法①	講義	
6	塚田	・複数患者の看護問題#のアセスメント①. 個人ワーク	講義	配布物:複数患者事例 レポート③ 個人ワーク用 「複数患者#のアセスメント」
7	塚田	・複数患者の看護問題#のアセスメント② グループワーク	講義	提出物:レポート③ GW用 「複数患者#のアセスメント」

8	塚田	・複数患者受け持ち時のタイムスケジュール作成② 個人ワーク	講義	配布物： レポート④ 個人ワーク用 「タイムスケジュール」
9	塚田	・複数患者受け持ち時のタイムスケジュール作成② グループワーク ・多重課題演習 オリエンテーション	講義	提出物：レポート④ GW 用 「タイムスケジュール」
10	塚田	多重課題への対処をふまえた援助技術の実施 ・行動計画に基づいた演習、突発的事象への対応	演習	
11	塚田	多重課題への対処をふまえた援助技術の実施 ・行動計画に基づいた演習、突発的事象への対応	演習	
12	塚田	多重課題への対処を踏まえた援助技術の振り返り ・グループ毎でのリフレクション、まとめ	演習	提出物：レポート⑤ 「演習の振り返り」
13	今井	・産業看護 ・産業保健の意義と目的 ・基盤となる法律 ・トータルヘルスプロモーションの理念 ・健康づくりのスタッフと役割 ・自身の心身健康管理	講義 グループ ワーク	
14	各領域の 担当教員	知識の統合試験① 必修問題	試験	
15	各領域の 担当教員	知識の統合試験② 一般・状況設定問題	試験	

使用テキスト	既習で使用したテキスト全般
参考書・資料 等	既習で使用したテキスト全般
この授業科目の前提となる主な科目	専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ全般
この授業科目から発展する主な科目	科目全般
成績評価の方法	評価時期： 13回の講義と演習終了後、2回に分けて(14.15回目)終講試験を行う。 評価方法： 基礎・成人、老年、小児、精神、地域在宅、統合の各領域の問題を統合した、看護師国家試験に準じた問題とする。筆記試験100%。評価方法が変更になった場合、その都度連絡する。
その他 受講生への要望等	・本科目の単位修得は、卒業予定年次に履修することが条件となる。 ・到達目標1～5に関しては、3年間で修得した基礎知識・技術・態度(実習での経験)をふまえて臨むこと。授業毎に行う提出物を主体的に取り組み、統合実習での学びに繋げていくこと。 ・知識の統合試験は、3年間の総まとめとなるものであり、十分な学習をして臨むこと。